

山本かずひと



令和5年度の4会計決算が認定



先月に続き、第3回定例区議会は後半戦に入り、決算審査特別委員会の集中審議が開催されました。今月号の区政報告はその決算審査特別委員会における主な審議をご報告させていただきます。まず、令和5年度普通会計決算の概要についてですが、歳入総額は1,238億7,900万円で、前年度比10,1%減、歳出総額は1,179億8,100万円で、前年度比10,6%減となりました。これは、コロナ対策関係や再開事業等大規模な施設整備費用の減によるもので、区民サービス全般に亘る低下には影響を及ぼすものではありません。また、歳入の根幹を成す特別区税収入は、年々増加の一途を辿り、5年度も前年度比3,4%増の398億8,000万円となりました。これは、課税所得水準及び納税義務者数が増加をしていることによるもので、引き続き区財政の安定的な歳入が確保されている状況となっています。それでは、以下決算審査特別委員会の審議で議論になった主な意見・要望についてご報告させていただきます。

避難行動要支援者の支援について

避難行動要支援者の避難所等での支援を的確に行う為、要支援者が訓練に参加した際の訓練映像を記録するなど、他の避難所にも情報共有出来る仕組みを検討すること。また、避難行動要支援者避難支援プランの更新に当たっては、要支援者と支援者の双方と意見交換会を行い、その出された意見と要望を反映すること。

補聴器購入費用助成の拡大について

高齢者における聴力の低下は良好なコミュニケーションの妨げや認知症などの要因にもなることから、高齢者補聴器購入費用助成事業の助成額を拡大すると共に、事業の案内を健康診査のお知らせに同封するなど、周知の仕方を工夫し、補聴器の普及を促進すること。

小学校の教室不足の解消策について

小学校の教室不足の解消策として、隣接する小・中学校の合築や既存施設の移転等を検討すること。また、猛暑対策として、年間を通じて利用可能な校舎との一体型温水プールを整備すること。更に、全ての学校の空調の改修や屋上の断熱化を計画的に整備すること。

決算に対する「文京永久の会」の態度表明

我が国の経済はデフレ脱却に向け動き出している。区役所も行政需要の過少見積もり「節約病」から脱却し、積極的な経済活性化、教育、医療、福祉の強化、都市インフラの整備を一層進める必要がある。職員各位の働きに愛と感謝を捧げつつ、令和5年度4会計決算を全て認定する。